

大学生に対するパラグラフ・ライティングの指導

English paragraph writing instruction for university students

小屋 多恵子
法政大学

Abstract

This paper aims to report how to effectively develop English paragraph writing skills of science majors in one semester. They are required to conduct research in their specialized area, write papers and give oral presentations in English in an academic community as their final target. However, they have little experience to write one English sentence, even more various kinds of passage on a provided theme, so that university English teachers have to plan effective strategies for developing the students' writing skills in a short time to reach the goal universities set. In this class, reading aloud activities, Japanese-English translation activities, and some inductive and deductive activities for paragraph structures are conducted to help students write clear, logical and well-organized paragraphs and give oral presentations. In the last section, self-assessment and feedback data from the students are analyzed. (137 words)

キーワード： アカデミック・ライティング、パラグラフ、和文英訳、音読、フィードバック、PDCA サイクル

科目名	アカデミック・ライティング（必修科目）
対象者とクラス人数	大学2年生 最大20名
学習の目標	段落構成を理解し、論理的で説得力のある段落を書くスキルを養成する。

1. はじめに

本実践報告は、法政大学理工学部・生命科学部のアカデミック・ライティングにおいて

効果的な英語ライティング指導を立案し、施行した結果を示すものである。平成 11 年に告示された高等学校学習指導要領英語ライティングの目標には、「情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」とあり、さらに言語活動の取り扱いでは「文章の構成や展開に留意しながら書くこと」と特記されている¹。従って、一文単位が中心の従来型和文英訳から目的や場面に応じた段落やレポートを書く能力を養成することまで、幅広い活動が高等学校で展開されていることが予想される。しかしながら、実際に大学生に高等学校までの英語を書く活動について質問すると、「ライティングの授業がなかった」「英文を書く機会がほとんどなかった」「ライティングという授業はあったが、文法を勉強していた」という回答が返ってくる。この回答の背景には、大学入学試験の英語科目に英文を書かせる問題が少ないこと、40 人を超えるクラスサイズ、まとまった英文を指導する教員が少ないこと、授業時間の制約などから、高等学校では書く技能が軽視されている現状が推測できる。このような現状と「学術研究に資する英語の習得を目指す」大学英語教育目標が乖離していることを、大学で英語ライティングを担当する教員は認識しておかなければならない。特に、理工・生命系の学生は、専門分野に関する最新の英語論文を読み、自分の研究を英語で書き、英語で発表することが求められるため、英文を書いた経験が少ない学生にいかにか効果的で有効なライティング指導を実施するかはかなり難しい課題であると言える。

2. アカデミック・ライティングの概要と担当クラス

この授業は 2 年生半期必修科目であり、1 年次で習得した基礎文法及びライティング力を発展させ、英文論理構成の基礎や展開法を理解し、それをもとに論理的で説得力のあるパラグラフを書くことを目的とするものである。最終的には学生自身が選んだテーマに関して英語でパラグラフを作成し、プレゼンテーションを行う。授業は 20 人を上限とした少人数クラスで実施し、1 人 1 人にきめ細かな指導を行い、効果向上を図る。

また、この授業は 1 年次終りの TOEIC-IP テストをもとに編成された習熟度別クラスであり、今回担当したクラスは TOEIC の点数が最も低い学生で構成されている。

3. 授業計画

アカデミック・ライティングには、論理的なパラグラフを書くことと、プレゼンテーションを行うことの 2 つの目標が設定されている。その目標と学生のライティングの現状を踏まえて、半期の授業計画を以下の通りに作成した。

大学生に対するパラグラフ・ライティングの指導

	パラグラフ・ライティング	一文レベル	音読
第 1 回	パラグラフとは 1 : 書式と句読法	時制	音読 1
第 2 回	パラグラフとは 2 : 主題文・支持文・結語文	準動詞 1	
第 3 回	パラグラフとは 3 : 主題文の構成	準動詞 2	
第 4 回	パラグラフとは 4 : 支持文の構成	助動詞	音読 2
第 5 回	パラグラフとは 5 : 結語文の構成	関係詞	
第 6 回	パラグラフとは 6 : 実践	仮定法・比較	
第 7 回	Process paragraph 1	前置詞	音読 3
第 8 回	Process paragraph 2	確認試験	
第 9 回	Cause and effect paragraph 1		
第 10 回	Cause and effect paragraph 2		音読 4
第 11 回	Opinion paragraph 1		
第 12 回	Opinion paragraph 2		
第 13 回	Presentation		
第 14 回	Presentation		

パラグラフ・ライティングでは、まずパラグラフの基本的な構成を学習した。段落を構成する主題文、支持文、結語文を理解し、いろいろなパターンのモデルパラグラフからそれらの理解を深め、学生が主題文、支持文、結語文がないパラグラフを自分で英作文して完成させ、最後に自分たちでパラグラフ構成の観点からいろいろなパラグラフを評価する。より多くのパラグラフを使って、理解→書く→評価へとつなげていった。次に、**process paragraph, cause and effect paragraph, opinion paragraph** において、各自オリジナルテーマを立て、基本構成に従って書く。この2つの活動が授業のメインとなる。テキストは『効果的なパラグラフの書き方』を使用した。プリントを適宜配布した。

3つのオリジナルパラグラフは、**draft 2**回の提出をノルマにした。学生は、**first draft**を提出後、主にパラグラフ構成と文法・語彙・フォーマットの観点から添削したものを受け取り、それを基に**second draft**を作成し、再び添削を受け取らなくてはならない。学生の向上心を大事にするため、**third draft**以降の任意提出とメールや大学が設けている授業支援システムを利用して**draft**を提出することを許可した。

13、14回目の授業では、プレゼンテーションを行った。1人5分位を目安にし、3つのパラグラフから最も自信のあるものを1つ選び、みんなの前に立って原稿をみながら音読する。発表には、音声だけでは聞いている側が理解できないことがあるため、ワードファ

イルやパワーポイントでアウトラインを書いた *visual aid* を作成させた。聞き手も真剣に聞く体制を整えるため、発表内容と *delivery* (音読練習のポイント、声の大きさ、発表の姿勢など) を 5 段階で評価する評価シートを配布し、採点させた。

一文レベルの基本文確認は、高校の教科書に出てくる基本的な文法事項を含んだ 100 の文を選択し、そこからさらに 70 の文を選んで和文英訳をする活動である。この活動の目的は、基本的な文法事項 (e.g. 時制、準動詞) のおさらいと意味は分かるが書けない英文を *receptive knowledge* の段階から *productive knowledge* の段階へと変えていくことの 2 点である。

次の 2 文は基本文の例である。

- (i) If it is fine tomorrow, we will go for a picnic.
- (ii) I don't know if it will be fine tomorrow.

上記のように、条件を表す副詞節の *if* と目的格名詞節を導く *if* の区別は、多くの学生が理解できるが、実際には書くには難しい。天候を表す *it* や天気が良い時に使う *fine*, ピクニックに行く *go for / on / to a picnic, go on an outing* も高校までの教科書に頻出するが、書けないのが実状である。

この活動は、第 1 回はイントロダクションの中で、第 2 回から第 6 回では授業の最初の *warming up* として 10 文の和文英訳を行った。第 6 回終了後に定着を図るテストを実施した。

音読練習では、約 80 words からなるパラグラフを、発音、イントネーション、アクセント、意味のかたまり (*thought groups*) や内容語と機能語の区別などの観点に着目した音読練習を行った。これは、最終的に自分の書いたパラグラフを、聞き手に理解しやすく発表するための練習である。音読のパラグラフは、*TOEIC speaking test* のサンプル問題を使用し、全 4 回様々な内容のパラグラフを提示して音読練習を実施した。練習は、3 回の授業で 1 回位の割合で実施し、*IC recorder* に録音して提出させ、発音、イントネーション、アクセント、*thought groups* や *content words/function words* の区別などの観点から採点し返却した。ただし、20 人×4 回の採点はかなり負担が大きいため、1 回につき 5 人を無作為に抽出して採点をし、1 人につき 1 回目から 4 回目までのどれか 1 つを採点する方法をとった。

3. 評価

最終的に、3 つのパラグラフの提出状況 20 点、発表 10 点、一文レベル確認テスト 20

点、最終提出パラグラフ 50 点の 100 点満点で評価した。最終提出パラグラフは、3つのパラグラフの中で最も完成度の高いものを提出し、それを次の項目より採点した。

Organization

タスク達成度、主題文、支持文、結語文、一貫性 (各 5 点)

Mechanics

文法、語彙、つなぎ語、スペリング、フォーマットと句読法 (各 5 点)

4. 実践後評価

4.1 教員からみた授業評価

以下は半期アカデミック・ライティングの授業の問題点・改善点である。

1. 一文レベルからパラグラフレベルへの移行

木村他 (2010: 130)において、初級学習者には和文英訳が効果的であると指摘している通り、今回はこれまで英文を書いた経験がほとんどない学生に、高校卒業時までに習う一文レベルの和文英訳を行う活動を行った。一文レベルの活動と同時にパラグラフの構成を学んでいったが、一文レベルからパラグラフへとうまく移行させることが出来たか疑問である。木村他 (2010: 130)では、一文レベルの基本文を暗唱し、スラスラ口頭で言えるようになってから、その延長として、扱った表現を使用できるようなトピックを提示し、3文から5文程度のパラグラフに膨らませる活動を提案している。このような活動を取り入れて、一文レベルとパラグラフ・ライティングとをうまく結びつけることが必要ではないか。

2. テキストの選択・モデルパラグラフの吟味

なるべくたくさんのモデルパラグラフをインプットして、段落の構成や展開の仕方を学ぶ場合、テキストの吟味は重要である。パラグラフ・ライティングのテキストはここ数年多数出版されているが、モデルパラグラフに疑問を感じることが多い。例えば、次の2つの例は、主題文・支持文・結語文を特定し、構成を確認するチャプター「パラグラフとは？」に登場する。モデルパラグラフ 1 は結語文が欠如している例、モデルパラグラフ 2 は支持文が主題文をうけてうまく展開されていない例である。

モデルパラグラフ 1

Bees play an important role in nature. A hive can make up to two pounds of honey a day. The average American consumes a little over one pound of honey a year. More

importantly, bees transfer pollen from the male to the female parts of flowers, contributing to about one-third of the world's food. Each year, bees pollinate 95 crops worth an estimated \$10 billion in the U.S. alone.

モデルパラグラフ 2

If you dream of traveling to country with beautiful tropical islands, wonderful food, beautiful places to go sightseeing, and very friendly people, you should visit Indonesia. If you look at the map, the first thing you notice is that Indonesia is made up of islands---more than 17,000 of them. Traveling between islands by boat is great fun. Just like the many islands, there are also many different groups of people living in Indonesia. In fact, there are about 300 different ethnic groups! Most Indonesians are Malay, but others are Javanese, Balinese, Chinese, or Indian. All these groups together make Indonesian culture very interesting. Finally, Indonesia has many cities and historical sights to see. Jakarta, the capital city, is fast becoming a modern center of commerce, yet the ancient temples on the island of Bali show that the country's old traditions are still alive. All the people, places, and things to see definitely make Indonesia a great place for a vacation.

モデルパラグラフ 1 では結語文を作るタスクを行うことや、モデルパラグラフ 2 ではパラグラフを評価し、関連のない文を指摘するタスクに変えることは可能であるが、構成を説明するチャプターでは、良いモデルパラグラフをたくさん読んでパラグラフの基礎を固めたいため、新たに明快で論理的なモデルパラグラフを提示する準備が必要となる。

3. 主語・述語の選択と翻訳ソフトや辞書を使った指導

学生のライティングを見てみると、学生は何を主語にしたらよいかわからないと感じることが多い。例えば、以下のような例である。

(1) 大学入学試験は廃止すべきであるという意見があります。

学生の英語 : There is an opinion that university entrance examination should be abolished.

可能な英語 : Some people say that entrance examination should be abolished.

(2) 今時代、小学校で英語を教えても意味がない(身につかない)という話がでてきている。

学生の英語 : Even if it teaches English at these days cost and a primary school, the talk of being meaningless is coming out.

可能な英語 : Some people say that there is little point in teaching English to primary school children.

上記は、日本語をそのまま和文英訳した、または無料翻訳ソフトを使用した例である。何を主語とし、それを受ける動詞は何を選べばよいのかを決定する練習が必要である。また、翻訳ソフトについても、手軽に使えて実際に使用している学生もいる。しかしながら、翻訳ソフトは未だに改良の余地が多く、ある程度の英語力がないと学生は翻訳された英語をどのように修正したらよいかわからず、翻訳ソフトの it から始まる文をそのまま使ってしまう。辞書指導も取り入れる必要があるだろう。和英辞典のみを参照し、例文を読まずに見出し語だけを利用するケースが多く見られる。一文レベルの英語に加えて、主語述語の決定や翻訳ソフト・辞書についての指導を取り入れるべきである。

4. フィードバックの仕方と教師の負担

まずは、添削の仕方について。自分で直すことができない学生の英文はどこまで直したらよいか迷うところである。出来るだけ文章構成を中心に直すべきであると考え、英文自体の添削は程度問題である。全く理解できない英文では手を入れないわけにもいかず、直してしまうとその学生の文章ではなく、直し手の文章になってしまう。どこまで添削をするかは、教員によって考え方が異なると思う。

次に、英文の提出方法について。アカデミック・ライティングは半期の授業であるため、時間が限られている。授業内だけで学生の書いたパラグラフを添削し返却するには時間が少ないため、積極的にメールや授業支援システムを利用してみた。しかしながら、コメントを書いてフィードバックしても実際に学生が理解しているのか、向き合って指導すべきなのではないか、疑問が残る。学生の理解に関わらず、このような添削作業は、授業外の教員の作業が膨大になり、かなりの負担になる。

4.2. 学生の授業評価アンケート

以下は、学生の授業評価アンケート結果である。自由回答は学生の記述通り記載した。

問1. この授業を履修してよかったですと思いますか？

はい	いいえ	どちらとも言えない
92.9%	0.0%	7.1%

この授業を履修してよかったですと思いますか？（「はい」についての自由回答）

- ・楽しかった
- ・英語が書けるようになった

- ・職人になれた
- ・基礎英語力がついた
- ・基礎的な英作文を学べてよかった
- ・実力がついた
- ・楽しかった！！
- ・文法とかの復習や英語で文章を書いたりして良い経験ができた
- ・そこそこな内容だった
- ・音読のスキルが身についた
- ・たのしかったです
- ・必修だったので
- ・文章力がついたと思う
- ・たのしかった

問2. あなたは、1 時限（90 分の授業）につき、平均してどのくらい予習・復習・レポートの作成などの授業時間外の学習を行って授業に臨みましたか。（週）

週 4h 以上	週 3h～4h	週 2h～3h	週 1h～2h	週 30mins～1h	週 30mins 以下
14.3%	0.0%	0.0%	21.4%	42.9%	14.3%

問1 では、教員の指導の悩みとは逆に、ある程度楽しみながらライティング活動を行っていることがわかる。また、パラグラフを作成する作業は、情報を集めたり、情報を論理的に構成したり、英単語を選択したり、つなぎ語で文と文をわかりやすくしたりと様々な作業を要するが、実際に学生はその活動にあまり時間をかけていないことがわかる（問2）。一方で、週4時間以上かけた学生もいた。

5. おわりに

この実践報告では、英語を書く作業経験が少ない学生に対して、短期間で効果的に書く技術を身につける授業を模索し、実施した授業を報告した。PDCA サイクルが最近の教育現場でキーワードとなっているが、授業前に授業を綿密に計画し、実践しつつも学生の反応に応じて修正し、授業全体を評価して、次回の授業をより良いものにしていく必要がある。学生の授業評価からは、大変なタスクに取り組みつつも、楽しく授業に参加できた様子がうかがえるが、実際に書く技能を習得できたかは疑問が残る。特に一文レベルからパラグラフレベルまで多くの課題を提示した上に、音読練習やプレゼンテーションの準備まで課

大学生に対するパラグラフ・ライティングの指導

すことによってどのようなスキルがどの程度定着したのであろうか。今回の実践報告をもとに、更なる修正を加える必要を強く感じる。

注

1. 平成 25 年から施行される新高等学校学習指導要領では、ライティングはオーラル・コミュニケーションと一緒に「英語表現 I, II」の科目となる。この科目は、「論理的に表現する能力を育成すること」を目的とし、特に「英語表現 II」内容(1) イには「主題を決め、様々な種類の文章を書く。」とあり、(2) イには「論点や根拠などを明確にする」とともに、文章の構成や図表との関連、表現の工夫などを考えながら書くこと。」を指導するよう配慮するようにと記されている。この科目では、現行のオーラル・コミュニケーションとライティングの指導内容のうち、特に必要な構文・文法をもとに、論理的思考力や発信力の育成が期待されている。

参考文献

神保尚武他 (2008) 『効果的なパラグラフの書き方』南雲堂

木村博是・木村友保・氏木道人編 (2010) 『リーディングとライティングの理論と実践』
大修館書店

Appendix 1: 音読練習例

Read a Text Aloud 1 ()

Whether you prefer shopping, sightseeing, or adventure sports, the Tropicana resort is the place for you. There are ancient ruins and beautiful beaches for you to enjoy and photograph. In addition, there are outdoor activities like trekking and SCUBA diving to keep you busy. If shopping is your thing, there are three outdoor markets filled with interesting souvenirs. Consider Tropicana for your next vacation.

Analyze the text above according to the following instructions

- Underline any words you might have difficulty with.
- Mark the intonation of lists, transition words, and questions with a rising or falling arrow.
- Divide the text into thought groups with a slash.
- Mark the stress of the content words with a dot.

Rater () Sum ()

pronunciation	1	2	3	4	5
Lists	1	2	3	4	5
transition words	1	2	3	4	5
Questions	1	2	3	4	5
sentence stress	1	2	3	4	5
thought group	1	2	3	4	5
Comment					

Appendix 2: presentation の評価シート

Evaluation Sheet for the Final Performance

In the Final Performance you will evaluate each of the speakers on the skills covered in this course.

☞ Scale: lowest is 1, highest 5

Presenter's name	Story message	Physical message	What was best about the speaker's presentation?
Taeko Koya	4	4	声が大きく、ゆっくり話していたから聞きやすかった。
①			
②			
③			
④			
⑤			
⑥			

No. () Name ()